

その他の金属製品製造業における崩壊・倒壊災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	9～ 10	自社工場にて、工場に立てかかっている鉄板をチェンブロックで吊る際に、縦吊りクランプを入れる隙間がなかったため、手前に起こした際に鉄板が倒れ掛かってきて抑えようとしたが、重さに耐えきれず、逃げ遅れて右足を被災した。	61	1～ 9
2	15～16	第一工場において、縞鋼板を加工する作業中に、倒れてきた縞鋼板（4.5mm厚、1219×2438）4枚、約440kgと運搬用に駐車していた2tトラックの荷台に左腕を挟まれ骨折した。	22	30 ～ 49
2	9～10	荷降し場でトラックから2tの柱を降ろす時、周りの確認のための補助として入っていたが柱の枝が十字でその1本が地面についた時、バランスを崩して、倒れてきた。手を出さない様（倒れてきても）指示は出していたが思わず支えようと手を出してしまい、倒れてきた側から支えに行こうとして、枝に足をはじかれ骨折した。荷物の柱は、バランスを崩したとは言え、チェーンワイヤーで吊しているため地面に全てが降りきるわけではなかったため、労働者本人の上に落ちたりはしていないし、乗っていない。	41	1～ 9
2	10～11	機械が材料切れにて停止したため、機械北側原線置き場に立て掛けてある次に伸線する原線（1tコイル径7mm）のメタルタグを確認後、原線の正面に背を向けた状態で傍らに止めていたリフトに乗ろうと振り返った時、原線が倒れてきて左足が下敷きになり被災した。	52	100 ～ 299
3	11～12	当社工場内でアルミ部材をコマ付台車に載せ移動中、建物と屋外の段差でバランスをくずし台車が倒れるのを防ごうとし、台車に挟まれた。	63	10 ～ 29

4	10～ 11	当社メッキ加工作業場内にて（メッキ加工最終工程）、水洗い後、メッキ付着量を計量するため、台秤で測定しようとした際に発生した。クレーンで吊った状態から安定した状態（前倒しして平にする）で測定するため、手前に倒そうとしたとき、なまし鉄線1本で吊っていた鉄板重ね8枚（1000mm×1300mm×450mm重量470kg）が倒れ、作業員右足を圧迫し負傷した。原因は、加工製品の重量に対するなまし鉄線の選定と使用状況、および作業員数を増やすなどの状況判断の甘さにある。	67	1～ 9
4	13～ 14	塗装場にて1人で立て掛けてあった扉の枚数を確認していた所、4枚目の扉を立てたため支えきれなくなり、扉が倒れて下敷きになった。	29	10 ～ 29
4	13～ 14	工場にて天井クレーン配線および試運転中、クレーンガーターが転倒し、アングルの下敷きになった。	57	1～ 9
4	16～ 17	第二工場仕上げ作業場にて、高く積まれた製品をクレーンで吊り上げた際、積まれていた製品が崩れ怪我をした。	54	10 ～ 29
5	15～ 16	制御盤（W1650×H2120×D600、重さ約200kg）の塗装をする前にシンナーで汚れを落とす作業中に、しゃがんでウエスをシンナーで濡らしている時、制御盤が倒れて右肩に当たり、左足を巻き込むようにひねって倒れ、左足を骨折した。	22	10 ～ 29
5	15～ 16	鉄骨製造工場屋外から屋内への梁の移動作業中、被災者が梁を移動用台車の上に橋形クレーンで置いた。その後、被災者は梁から吊り具のクランプを外し、別のクレーン作業で使う作業員Aに操作リモコンを渡した。Aはクレーンを移動するためクレーンを巻き上げたが、クランプが梁に引っ掛かり、梁が側にいた被災者を巻き込み転倒、落下した。その際、梁が被災者の胸部に落下した。	43	10 ～ 29
5	11～ 12	当工場内において鋼材をクレーンで移動させようと吊り上げたところ、床に2段積みで置いてあった鋼材の上段に当たり、その鋼材が左足の安全靴の上の部分に落ちて、甲の部分骨折した。	58	10 ～ 29
5	17～	出張作業中、同社工場構内で鋼材の整理中、溶接用ケーブルが梁仕上げの先端に引っ掛かり、それを若干引っ張った時に梁材が不安定だったので倒れ、左足首に落	39	1～

	18	下した。		9
6	15～16	第5工場建屋内東側にある素材置き場にて、D22用スタンションに仮置してあった材料を取り出すため、玉掛け作業で地切した際に、隣のスタンションD19の材料が被災者側へ荷崩れし、そのあおりを受け、仮置きしてあった素材用のスタンションと荷崩れしてきた素材に右足を挟まれた。	37	100～299
6	10～11	当事業場製品置き場において、フォークリフトを使用してH形鋼を台座に移動する作業中、切り欠きのあるH形鋼を誤って切り欠き部分を下にして置いたため、隣に置いてあったH形鋼に倒れ掛かってしまったので、フォークリフトから降りて手で動かそうとしたところ、倒れ掛かっていたH形鋼が台座の上で倒れ、そのH形鋼と台座の間に右示指が挟まり負傷した。	58	10～29
6	13～14	当社工場内において、H鋼のショットブラストへの送り作業中、積んであったH鋼（40×20×200cm）がバランスを崩して倒れてきたため、左足膝下に当たり負傷した。	66	10～29
6	16～17	工場内において、倒れ止め補強支柱の溶接が小さすぎて溶接が外れ、品物が転倒し、右足大腿部の上に倒れて切れてしまった。	51	1～9
6	14～15	工場内にて鉄骨階段の溶接作業中、架台に載せてあった階段に足を引っ掛けたことにより階段が倒れて、架台と階段に挟まれ、左足の甲の部分を持ち、9針縫った。	46	1～9
7	11～12	工場内ヤードで、橋梁の横桁のたたみ作業及びふだ付作業をしている時隣で、横桁の漆接板をクレーンでばらしていた。クレーンオペレーターが玉掛け図者の巻き上げストップの合図がわからなかったため、H桁に並べてあった横桁が崩れ下敷きになり足を負傷した。	32	1～9
7	11～12	工場内ヤードで、橋梁の横桁のたたみ作業及びふだ付作業をしている時隣で、横桁の漆接板をクレーンでばらしていた。クレーンオペレーターが玉掛け図者の巻き上げストップの合図がわからなかったため、H桁に並べてあった横桁が崩れ下敷きになり足を負傷した。	41	1～9
		被災者は、材料保管庫において、材料のラベルを確認する作業をしていた。60キ		

7	10~11	口ほどあるコイル材（ドーナツ状のもの）が、立てかけてあり、その裏にあるラベルを確認しようとした際、コイル材がバランスを崩し、被災者の右足甲の上に倒れ、右足の甲を骨折したものである。	63	30 ～ 49
7	10～ 11	工場で吊り物をしている時に横にあったH鋼に引っ掛かり、その物がたおれて足首にあたりけがをした。	59	1～ 9
7	9～ 10	会社工場内の塗装小屋において室内クレーンを使い製品の整理の作業をしていたところ、吊り具を製品に引っかけてしまい、そのはずみで製品である鋼材（1.5t）が倒れ、本人の両足大腿部を直撃したものである。	26	10 ～ 29
7	15～ 16	当社工場内において、製品の建築用ベース金物（150角型鋼：高さ300mm・厚12mm、ベースプレート：300×300・厚16mm・約25kg）のロボット溶接後の点検をするため、作業台の上に製品を並べていた。作業台の上に製品を2段重ねで並べていた際、上段に重ねようとした製品が上手く載らずに、作業台の上に倒れ落ちてきてしまい、軍手をしていた右手の甲に製品がぶつかり、負傷した。	62	50 ～ 99
7	11～ 12	2.8t天井クレーンで鋼材を置く際に、隣に置いてあった鋼材の台木にぶつけ、その鋼材が落下した。その落下した鋼材の長さが通常（4000mm）よりも長く4700mmであったため、足に近く、落下と同時に避けたが、左足に鋼材が衝突した。	56	50 ～ 99
7	9～ 10	工場内で、パレットから台車に鉄板を積み終えて、パレットの位置をずらすため移動しようとしたときに、台車の端に鉄板を置いたため、台車のバランスが悪くなり、台車から鉄板が崩れ落ち、それが右足に当たり負傷した。	38	10 ～ 29
7	16～ 17	当事業場内において、H鋼材（約1t）の塗装作業を行っていた。その材料の裏側に塗装するため、H鋼材の向きを変えようとクランプに挟んで吊り上げたとき、クランプが外れ、自分の方へ倒れてきた。自分の後部にも鋼材が置いてあり、左胸と肩、腹の間が鋼材間に挟まれた。	30	10 ～ 29
7	9～ 10	材料置場で材料を支えていた際、材料が倒れて来て、右足が挟まれた。	36	10 ～ 29
		金属材料を積み上げている台から、材料の一つを取り出そうとしたところ、積み上		10

9	11～ 12	げている下の部分の材料を取ってしまったため、上部の材料がくずれてきて負傷したものである。	26	～ 29
9	11～ 12	工場の外のウマの上で、厚さ6mm長さ6m重さ100kgの鉄骨加工中、1人で回転させた為、片方が転がり反動で人がいる方にも転がり、足に落ちた。	47	1～ 9
9	11～ 12	工場内にて寸法確認作業をしていた時、製品1（高さ3M巾3M程度の箱型）に万力で上下2ヶ所固定していた鋼材（H鋼100×100×6×8/2M程度）が、固定がはずれ倒れかかってきた、避けようとしたが、背後にあった製品2（高さ1M巾2M程度）との間に右足をはさまれた。	34	10 ～ 29
9	10～ 11	C棟東16柱北側、形鋼切断機付近で被災者が同僚二人で束ねてある角パイプ（16束、1本7メートル、215kg）の解放作業をしていて、同僚が結束スチールバンドをグラインダーで切ったところ、積み重ねてあった角パイプが付近にいた被災者の方に崩れてきて左足がパイプと残材（H鋼）の間に挟まれ、左足首上を骨折した。	30	100 ～ 299
10	11～ 12	工場内で鋼材の運搬のためクレーンで吊り下げた鋼材が倒れ、足に乗ったため左足のすねを骨折した。	67	1～ 9
10	9～ 10	台に置かれていた重さ約100kgのL字鋼の束から順次L字鋼を作業台へ持ち運ぶ作業をしていた。L字鋼を運ぼうとした際、誤って台に体を接触したため、束が崩れ、崩れたL字鋼で左手を挟み、左手小指、左手首を負傷した。	50	50 ～ 99
10	15～ 16	当社工場において、被災者と当社社員の2名で約300kgの板を他の場所から事故現場へ当社社員のクレーン操作で移動させる作業を行っていた。正規の置き場所ではなく、又、他の型の違う製品の上へ板8枚を積み上げている作業中に荷崩れを起こし、一緒に作業していた被災者の右足の上へ乗り、右足を負傷した。	18	30 ～ 49
11	9～ 10	当社工場内において加工した鋼材の場内移動中、被災者の手前側、そしてその奥と2本並んでいた大梁材のうち、奥の大梁材を玉掛け・吊り上げた際、手前側に置いてある大梁材（H-600×200）に引っ掛かり、それが被災者側に傾斜し、とっさに受け止めようとしたが、重量物のため受け止めきれず、正座した体勢になり両腿に倒れ込み、負傷してしまう。	23	10 ～ 29
	11～	工場でパイプの切削を行っている時に束にして置いてあったパイプの固定が緩く、		1～

11	12	束がばらけてしまい、パイプが足に落下した。	27	9
11	9～10	工場内にて作業中に、足元に鉄板を並べて置いて動かそうとした時、鉄板が崩れてきて左足指の上に落ちてきた。	69	1～9
11	8～9	工場内を作業場に移動中、アングル（1,770×1,214の額縁）が倒れ掛かって来て、左足の上に倒れ負傷した。クレーン等で移動させていたものではなく、立てていたアングルが何らかの拍子に倒れて来て、左足が挟まったとのことである。	33	30～49
12	14～15	当社工場内で、鉄骨の仕口を組み立てる作業中に、ホイスで仕口を吊り上げ、反転させて下ろしたとき、仕口が左右対称でなかったため、バランスが崩れて自分の方へ倒れてきた。その際に避けきれず、左足の脛脛に当たり、負傷してしまった。	62	10～29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html